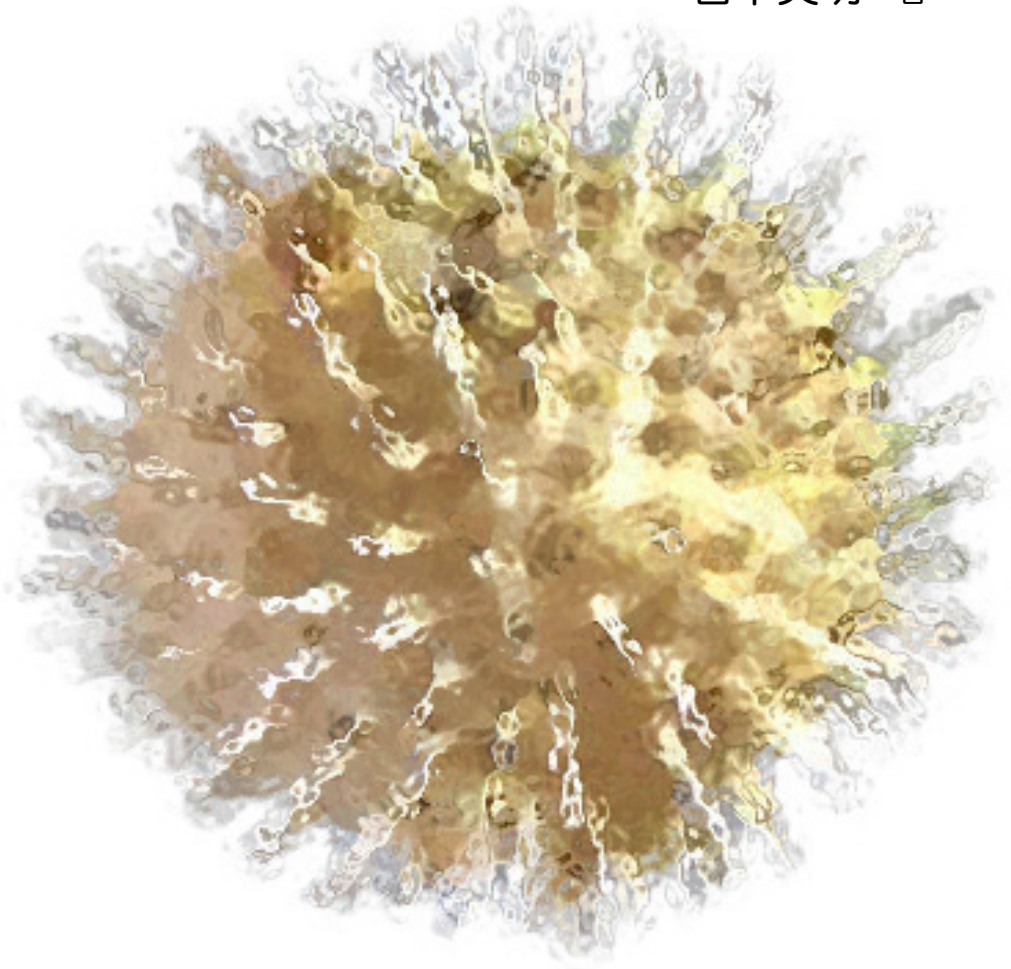
「新型コロナ」：洗脳・全体主義

――「馬鹿な戦争をやったもんだ」が繰り返されるしくみ――

自粛警察

Ver. 2020-06-09

宮下英明　著



文中の青色文字列は，ウェブページへのリンクであることを示しています。

「新型コロナ」: 洗脳・全体主義

自粛警察

本書について

本書は，

http://m-ac.jp/

のサイトで書き下ろしている

『「新型コロナ」: 洗脳・全体主義

——「*馬鹿な戦争をやったもんだ*」が繰り返されるしくみ』

の「自粛管制」の章を PDF 文書にしたものです。

目次

はじめに …… 1

1　緊急事態宣言・特措法
1.1　危ない法の「危ない」の意味 …… 5
1.2　非国民懲罰条項 …… 6

2　戦時体制
2.1　戦争 …… 11
2.2　「馬鹿な戦争」のしくみ …… 14
2.2　「非国民」 …… 18
2.3　国営メディア (NHK) は世論操作 / 誘導する …… 20
2.2　「*兵隊さんよありがとう*」 …… 23

3　非国民攻撃
3.1　非国民を告発・密告 …… 27
3.2　義憤テロ …… 30
3.3　白色テロ …… 32

4　反戦
4.1　カミュ『ペスト』ブーム —「ペスト」の読み方 …… 37
4.2　反戦者の条件 …… 39
4.3　「ゾンビ」の教え …… 41

おわりに …… 44

本文イラスト，ページレイアウト，表紙デザイン：著者

はじめに

作成 : 2020-04-23

自粛管制は，戦時体制である。
翻って，自粛管制で起こる/起こっている/起こるであろうことは，過去の歴史から学ぶことができる。
「温故知新」というわけである。

戦争は，戦争目的のために，良識・生活・経済・財政を犠牲にする。
これは本末転倒になっている。
狂気の沙汰である。
戦争は狂気がするのであり，狂気がするから「戦争」なのである。

ひとの知性・理性は，ひどく脆いものである。
ひとは，いつも退行しようとしている。
脳がそんなふうにできているのである。(知性・理性の根拠は大脳皮質だが，それは文字通り「脳の皮」に過ぎない存在である。)
そして災難時には，退行が集団的に起こる。
これがパニックである。
狂気がひとを支配する。

狂気は，自分を狂気とは思っていない。
正気のつもりである。
それどころか，自分を一等級の知性・理性と定めている。

「災難の収拾」は，この狂気が考えることになる。

そして狂気は ,「災難の収拾」を＜戦争＞にする。

「医療崩壊」を防ぐために，良識・生活・経済・財政を犠牲にする。
これが「新型コロナ」で起きていることである。
ひとはパニックに陥り,「新型コロナの収拾」を＜戦争＞にしたのである。

1　緊急事態宣言・特措法

1.1　危ない法の「危ない」の意味
1.2　非国民懲罰条項

1.1　危ない法の「危ない」の意味

作成 : 2020-04-23

「国民の安全のために，国民の安全を損なおうとする者たちを取り締まる――当然だ」
「国民を犯罪・テロから守るために，犯罪・テロを行おうとする者たちの通信を盗聴する――当然だ」
「国民をウィルス感染から守るために，自分本位から感染を広めている者たち取り締まる (晒し者にして罰する) ――当然だ」
かくして，「治安維持法」「盗聴法」「特措法」が立法される。

これらの法は，危ない法である。
なぜ危ないか。

立法する者は，正気がこれを運用すると思っていることになる。
しかし，この種の法が運用されるのは，狂気が支配している時――と相場が決まっている。
狂気が法を運用するのである。

その「狂気が支配している時」とは，「戦争」の時である。
この時, 国民一丸 (狂気共有) から外れる者が, 法を適用する対象になる。
「非国民」として取り締まるわけである。

危ない法の「危ない」の理由：
　《狂気が，狂気共有から外れる者を，粛清する》

1.2　非国民懲罰条項

作成 : 2020-04-23

読売新聞 , 2020-04-21

大阪府知事、休業要請応じない施設公表へ
今週中に

政府の緊急事態宣言を受け、大阪府が府内の商業施設などに休業を要請してから２１日で１週間となる。吉村洋文知事は２０日､休業要請に応じていない施設名の公表について「準備に入っている。今週中にやりたい」と述べた。

改正新型インフルエンザ対策特別措置法では、施設休業の要請は「協力要請」「要請」「指示」の３段階あり､「要請」と「指示」の場合は施設名が公表される。現在は協力要請の段階だが、吉村知事は記者団に「看過できないものは現地に職員を派遣し、それでも難しい場合は、施設名公表を伴う『要請』をしたい」と述べた。

読売新聞 , 2020-04-21

休業要請に応じないパチンコ店など「さらに強い措置」を検討
西村経済再生相

西村経済再生相は２１日の記者会見で、新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言発令後も休業要請に応じないパチンコ店などに､店名の公表を伴う休業要請や休業指示など「さらに強い措置」を検討していることを明らかにした。

都道府県の中には、知事がパチンコ店などの事業者に休業への協力を求めているところがある。しかし、応じるかどうかは任意となっており、一部の事業者はこれまで通りの営業を続けている。西村氏によると、こうしたパチンコ店などに「県域をまたがって人が集まってくるケースもある」ため、複数の知事から要請の強化について相談を受けているという。

宣言の根拠となる改正新型インフルエンザ対策特別措置法は45 条で、知事が事業者名の公表を伴う要請や指示などを講じることができると明記している。

「新型インフルエンザ等対策特別措置法」第四十五条

. . . . . .

3　施設管理者等が正当な理由がないのに前項の規定による要請に応じないときは、特定都道府県知事は、新型インフルエンザ等のまん延を防止し、国民の生命及び健康を保護し、並びに国民生活及び国民経済の混乱を回避するため特に必要があると認めるときに限り、当該施設管理者等に対し、当該要請に係る措置を講ずべきことを指示することができる。

4　特定都道府県知事は、第二項の規定による要請又は前項の規定による指示をしたときは、遅滞なく、その旨を公表しなければならない。

戦争推進者は，戦争を正義だと思っている。
そこで，国民一丸に従わない者を非国民として晒し罰するのは当然だと

思う。

戦争を正義にしているのは，狂気である。
「新型コロナ」の場合の狂気は，「医療崩壊」を何よりも重いものにする
という狂気である。
「医療崩壊」を防ぐために「良識崩壊・生活崩壊・経済崩壊・財政崩壊」
を許す――この本末転倒をわからなくする狂気である。

戦争の狂気は，敗戦になるまでわからない。
敗戦になって，自分が狂っていたことがはじめてわかる。

非国民弾圧を推進したトップは，戦犯になる。
大阪府知事・経済再生相は，戦犯になる者である。
この道理，よくよく吟味すべし。

2　戦時体制

2.1　戦争
2.2「馬鹿な戦争」のしくみ
2.3「非国民」
2.4　国営メディア (NHK) は世論操作 / 誘導する
2.5「*兵隊さんよありがとう*」

2.1　戦争

作成 : 2020-04-16

首長のうちには，「自粛」を合理化するのに「戦争」のことばを用いる者がいる。
「*これは戦争だから，民は上からの指示に従い一丸となるべし*」を言いたいわけだ。
首長とはそもそも，民を率いてみたいと思うタイプの者がなるものであるから，難局に際するとこれを「戦争」と呼びたくなるのである。

「新型コロナ」で「戦争」とは何か？
ウィルスはこれを相手として戦うものではない。

戦争は，敵が幻想の場合がある。
この戦争は，「非国民」を摘出し殲滅するシステムである。
敵となるものは，指示に従おうとしない者たちである。
即ち「非国民」が敵である。

指示は，「自粛」である。
ひとは，「*欲しがりません勝つまでは*」の体(てい)で，「自粛」に従わねばならない。
従わない者は，「非国民」である。

世の中は，「非国民」の摘出に血道をあげるようになる。
営業を続けている店舗を見つけたら，これにクレームの電話をかける。

人通りがまだ多い地域・スポットを見つけたら，これをさらしものにして，ひとがこれに抗議するよう仕向ける。――これは NHK ニュースの十八番（おはこ）である。
クレーマーは，この戦争でますます図に乗る存在になる。

「隣組」にあたるものも現れる。
東京都だと ,「特高警察」まがいを組織してくる。

「新型コロナ」戦争は，終わりのない戦争になる。
検査でウィルスが見つかる者は，掘り出せば出てくるからである。
危機メッセージで煽っておけば，不安になり病院に出向く者はつねにいる。
そして，その中にはある確率でウィルスの検出される者がいる。
十人単位の数くらいなら，「本日の新たな感染者」はずっと維持できる。
ウィルスとは無くなるものではなく，共生するものだからである。
そしてこれがつぎのインフルエンザに連続する。

「感染者増加」を生真面目に発表する「研究者」もいる。
ひとつの研究論文をつくることになり ,「研究業績」に加えることができるからである。
そしてこれに，考えの無いマスコミがとびつくというわけである。

「自粛」には，「これで終わり」がない。
これの果ては，破滅である。

経済は基本自転車操業であるから，こぐのを止めれば倒れる道理である。

敗けた戦争の話を戦後世代が聞いて思うことは，決まっている：

「*馬鹿な戦争をやったもんだ*」
「*なんて愚かな者たちだ――ひとはこんなに愚かになれるものか*」

しかし，現前がまさに生きた教科書である。
ひとは簡単に，自滅の戦争に嵌（は）まるのである。

2.2「馬鹿な戦争」のしくみ

作成 : 2020-05-30　更新 : 2020-06-09

司馬遼太郎 (1998), pp.4-6

人々はたくさん死にました。

いくら考えても、つまり、町内の饅頭屋のおじさんとか、ラジオ屋のおじさんなら決してやらないことですね。ちゃんとした感覚があれば、お店の規模を考えるものです。

ところが、こんな馬鹿なことを国家の規模でやった。軍人を含めた官僚が戦争をしたのですが、いったい大正から昭和までの間に、愛国心のあった人間は、官僚や軍人の中にどれだけいたのでしょうか。

むろん戦場で死ぬことは「愛国的」であります。しかし、戦場で潔く死ぬことだけが、愛国心を発揮することではないのです。四捨五入して言っておりまして、あるいは誤差を恐れずに言っています。

私自身の経験を言いますと、私は戦闘に参加したことはありませんが、どういう状況になっても恥かしいことはしなかっただろうと思います。周辺の人間数人、あるいは数十人の人間を前にして、みっともないことをしたくないという気持ちですね。それがあれば、人間は毅然とすることが出来ると思います。それは愛国の感情とは違う問題になります。

むろん、愛国心はナショナリズムとも違います。ナショナリズムはお国自慢であり、村自慢であり、家自慢であり、親戚自慢であり、自分自慢です。

これは、人間の感情としてあまり上等な感情ではありません。

愛国心、あるいは愛国者（パトリオット）とは、もっと高い次元のものだと思うのです。そういう人が、はたして官僚たちの中にいたのか、非常に疑問であります。

私は、ノモハン事件のことを調べてみたかったのです。ずいぶんと調べました。資料も集めました。人にも会いました。会いましたけれども、一行も書いたことがないのです。それを書こうと思っていながら、いまだに書いたことがなくて、ついに書かずに終るのではないか、そういう感じがします。

日本という国の森に、大正末年、昭和元年ぐらいから敗戦まで、魔法使いが杖をポンとたたいたのではないでしょうか。その森全体を魔法の森にしてしまった。発想された政策、戦略、あるいは国内の締め付け、これらは全部変な、いびつなものでした。

この魔法は何処から来たのでしょうか。魔法の森からノモハンが現れ、中国侵略も現れ、太平洋戦争も現れた。世界中の国々を相手に戦争をすることになりました。

たとえば、戦国時代の織田信長 (1534 ～ 82) だったら考えもしないことですね。信長にはちゃんとしたリアリズムがあります。自分でつくった国を大切にします。不利益になることはしません。

国というものを博打場の賭けの対象にする人々がいました。そういう滑稽な意味での勇ましい人間ほど、愛国者を気取っていた。そういうことがパターンになっていたのではないか。魔法の森の、魔法使いに魔法をかけられてしまった人々の心理

だったのではないか。

　私は長年、この魔法の森の謎をとく鍵をつくりたいと考えてきました。
　たとえば、これをマルクス主義に当てはめれば、パッと一言でこれだということになるのかも知れませんが、それでは魔法の森の謎を解くことは出来ません。
　手づくりの鍵で、この魔法の森を開けてみたいと思ってきたのです。どうも手づくりの鍵は四十年たっても出来たのか、出来ていないのか ---- その元気があるのか、ないのか ---- とにかくその鍵を合わせて、ノモハンについて書きたかったのですけれども。

　あんな馬鹿な戦争をやった人間が、不思議でならないのです。

「不思議でならない」が端緒であるのはよいが，いつまでもこれが続いているのは問題である。
いつまでも「不思議でならない」となるのは，つぎの認識がそもそも間違っているからである：

1. 軍人を含めた官僚が，戦争をした。
   民衆は，魔法をかけられた側。
2. みっともないことをしたくないという気持ちがあれば、人間は毅然とすることが出来る。

事実は，こうである：

1. 好戦的な世論喚起を意図して，誇張とデマで粉飾された「敵の卑劣」の情報が流される。
2. 国民はこれに洗脳されて，好戦気分になる。――「町内の饅頭屋のおじさんとかラジオ屋のおじさん」が，好戦的になる。
3. 軍人・官僚は，好戦的世論に押される格好になる。
   軍人・官僚のうちに，主戦論を唱える者がいる。主戦論を唱えるのはアタマが悪いからだが，こんなときは彼らの声が逆らえないものになる。
   こうして軍人・官僚は「大勢（たいせい）には譲るしかない」になっていき，ついに「開戦」宣言となる。
   そして一旦戦争を始めたら，もう引っ込みのつかない者になる。
4. 国民は，戦争への忠誠を競い合うようになる。
   そして，「非国民」の摘発に血道を上げるようになる。
5. 戦時体制のなかで，メディアは国民の洗脳を続ける。
   国民は，「戦争」の意味に思考停止して，「戦争」を支える。
6. 《みっともないことをしたくないという気持ちがある》は，《毅然とすることが出来る》にはならない。
   即ち，毅然としないことが己の生きていける条件のときは，ひとはみっともないことをしたくないという気持ちとは裏腹に行動する。

引用文献

司馬遼太郎 (1998)：『昭和という国家』，日本放送出版協会 (NHK出版)，1998.

2.3 「非国民」

作成 : 2020-04-16

戦時体制の敵は ,「非国民」である。
官僚機構は，これの本質であるところの＜杓子定規＞の発揮として，「戦時」に「非国民の鎮圧」を読む。
「特高警察」を組織し「非国民」の鎮圧に乗り出す。

「緊急事態宣言」をする自治体は，このようになる。
指示に従わない体（てい）の者は，鎮圧すべき「悪者」である。

北海道新聞 , 2020-04-15

ススキノ飲食店主「営業、まるで悪者」
道と札幌市、連夜の街頭パトロール

道と札幌市が緊急共同宣言に基づき、１２日からススキノ地区で始めた街頭パトロール。職員が連夜、そろいのジャンパー姿でプラカードを掲げ、不要不急の外出を控えるよう呼び掛ける。一方、飲食店の経営者らからは「休業補償もないのに休めない。営業している店がまるで悪者みたいだ」と不満の声も漏れる。

１３日午後６時から行われたパトロールは６人ずつの３班に分かれ、ススキノ地区の主要な通りを１５分ほど練り歩いた。無言のまま「ＳＴＯＰ！三つの密」などのプラカードを掲げ、最後尾には制服姿の警察官も。すれ違った男性は「営業自体は違法ではないはず。あんなに威圧感を出さなくてもいいのに」と驚いた。

・・・・・・

暮れ始めたススキノ地区でプラカードを掲げて歩く道と札幌市の職員ら＝ 13 日

2.4　国営メディア (NHK) は世論操作/誘導する

作成 : 2020-04-17

朝鮮中央テレビのニュースを，日本のテレビが部分的に切り取って伝えることがある。
これを見る者は，世論操作・誘導の厭らしさ・恐さを思う。

いまの NHK のニュースは，朝鮮中央テレビのニュースと同じである。
昨日政府が「緊急事態宣言の全国拡大」を発表したが，NHK ニュースはこれを「歓ぶ」国民の声をズラッと並べて見せた。

このことを指して NHK を「国策メディア」と捉えるのは, 間違いである。
「国策メディア」だと，＜国策 →メディア＞の順番になる。
しかし「国営メディア」を自任するものは，国策の先を行ってしまうものになる。
先走りするわけである。

この「先走り」のダイナミクスには，二つの契機がある。
「矜恃」と「忖度」である。
(このことは，朝鮮中央テレビでも同じと見るべきである。)

政府は，ひとが「自粛」一辺倒になることにいちばんブレーキをかけたい者である。
しかし，マスメディアによってつくり出される「ひとの声」に抗えず，これに引っ張られる一方になる。

戦争と政府の関係はいつもこうである。
「ひとの声」は，決まって，好戦一辺倒になる。
政府は，この「ひとの声」に抗えず，これに引っ張られる一方になる。
太平洋戦争は，過去の出来事ではない。
いままさに，これと同じ構図の事が起こっているわけである。

「ひとの声」は，なぜ好戦一辺倒に出来上がってしまうのか。
ひとは，正義に弱いからである。
正義を突き付けられると本心を萎縮させる――人間はこんなふうにできている。
100 人の集団では，1 人のクレーマーの意見が通り，99 人の良識が引っ込む。――クレーマーは正義だからである。

NHK は，＜正義担当＞を自任する。
これは，NHK の矜恃である。
NHK は ,「*政治は正義を行いたいのだろう*」と忖度する。
「*政治が躊躇しているようなので，われわれが先導して，やりやすくしてやろう*」となる。

こうなるのは，国営メディアのダイナミクスである。
「是非も無し」である。
批判する筋合いのものではない。

NHK がやってしまう世論操作・誘導は，ルールの導入で予防するのみである。

即ち，ニュースを「われわれの報道には偏向があります」のメッセージから始める――これをルールにするというものである。
テレビ画面に「これはあくまでも個人的な感想です」のジョーク･テロップがよく出てくるが，ニュースにこれを適用するわけである。――この適用は，ジョークではなくシリアスである。

2.5 「*兵隊さんよありがとう*」

作成 : 2020-05-30　更新 : 2020-06-09

「*兵隊さんよありがとう*」という歌があった。
いまこれを聴く者が抱く思い，それが「*馬鹿な戦争をやったもんだ*」である。

しかし，その時代の国民は，この歌を素直に受け入れていたのである。
この歌に共感することが正しいこと，と思っていたのである。

これは，不思議なことではない。
現に，いま起こっていることである：

日本各地で「医療従事者へ感謝の青」。

こんなのもあった：

読売新聞 , 2020-05-29

ブルーインパルス、都心上空に感謝のしるし…医療従事者らへ

航空自衛隊の曲技飛行隊「ブルーインパルス」が 29 日、新型コロナウイルスの感染者の治療などにあたる医療従事者らに感謝と敬意を表すため、東京都心の上空で華麗な飛行を披露した。

都内各地では、飛行を一目見ようと、ビルやマンションの屋上に上がり、空を見上げる人たちの姿が見られた。

ひとは，簡単に洗脳される。
そして「馬鹿な戦争」を繰り返す。

過去の戦争に対し「*馬鹿な戦争をやったもんだ*」を言って偉そうにしてきた者――リベラリストを自任する「知識人」や政治家なんか――は，いまはわが身を振り返るときである。

3　非国民攻撃

3.1　非国民を告発・密告
3.2　義憤テロ
3.3　白色テロ

3.1　非国民を告発・密告

作成 : 2020-04-25

日本人は , 生真面目である。
潔癖性である。
ただしこれは,「生真面目癖・潔癖癖」と呼ぶべきものである。
生真面目・潔癖であることの意味を考えない生真面目・潔癖だからである。
そして, 自分の生真面目･潔癖を誇り, ひととどちらが上かを競争し合う。

マニュアル, コンプライアンスは, この性癖とすこぶる相性がよい。
よって日本人には, 砂地に水がしみこむように浸透する。

いまスーパーでは, レジを待つ人が距離をおいて立つよう, 床に綺麗にビニールテープの線を引いている。
だれに指示されたわけでもない。
＜自分はこんなにちゃんとやっている＞を勝手に競い出すのである。

この性癖は, 逸脱を悪として嫌う。
文字通り「嫌悪」である。

日本人は,「人さまざま」を受けつけない。
「個の多様性」なんぞは, 右の耳から左の耳に抜けることばの類である,

かくして, 日本が戦争を始めると, 国民の中から非国民攻撃が開始される。

左翼イデオロギーは権力が「国民一丸」を国民に強いるストーリーをつくるが，事実はそうではない。
国民の方が，非国民の告発・密告に血道を上げるようになるのである。
取り締まりに洩れがあるぞと，権力に訴えるのである。

こんなぐあいにである：

読売新聞 , 2020-04-24.

訪問・文書・電話で休業要請したが …
応じないパチンコ６店舗、大阪府が全国初の公表

大阪府は 24 日、政府の緊急事態宣言を受けて出した休業要請に応じない府内のパチンコ店６店舗の名前を公表した。緊急事態宣言の発令後、休業要請に応じない事業者名の公表は全国で初めて。

・・・・・・

府のコールセンターには、23 日までに「休業要請の対象なのに店が開いている」「夜中まで営業している」などの連絡が計 1283 件寄せられているという。

徳島新聞 , 2020-04-24

徳島県外ナンバーにあおり
「県内在住」と車用ステッカーも

徳島県の飯泉嘉門知事は 24 日の定例記者会見で、県外ナンバーの車に「暴言やあおり運転、投石、傷つける」といった差別的行為が発生していると指摘、行為をしないよう呼び掛けた。

・・・・・・

県によると「県外ナンバーに乗っていたら嫌がらせを受けた」と被害を報告する声の一方で「県外ナンバーが多い」との指摘など、ナンバーを巡り１日数十件程度の声が寄せられているという。徳島県は感染者が 24 日現在で計５人と少ない。

3.2　義憤テロ

作成 : 2020-04-25

徳島新聞 , 2020-04-24

徳島県外ナンバーにあおり
「県内在住」と車用ステッカーも

　徳島県の飯泉嘉門知事は 24 日の定例記者会見で、県外ナンバーの車に「暴言やあおり運転、投石、傷つける」といった差別的行為が発生していると指摘、行為をしないよう呼び掛けた。
　・・・・・・
　県によると「県外ナンバーに乗っていたら嫌がらせを受けた」と被害を報告する声の一方で「県外ナンバーが多い」との指摘など、ナンバーを巡り 1 日数十件程度の声が寄せられているという。徳島県は感染者が 24 日現在で計 5 人と少ない。

戦時は，正義が闊歩する時である。
この正義は，非国民に憤る正義である。

義憤は幼稚なものである。
もともと正義の所以が勉強の足らなさだからである。

平時は損になる勉強不足だが，戦時では＜容易に正義になれる特質＞として有利に働く。
幼稚な義憤は，逆らってはならないものである。
幼稚である分，かんたんにテロをやるからである。

ひとの生活は，義憤に怯えるようになる。
「徳島県内在住者です」ステッカーは冗談のようだが，こんなことが当たり前になっていくのである。

政治は，義憤をはじめのうちは都合のよいものにして，これを利用しようとする。
しかし，利用しているうちにこれの恐さがわかってきて，これに怯えるものになる。

「暴言やあおり運転、投石、傷つける」は，たしなめてはならない。
しないようお願いしなければならない。
――となる。

3.3　白色テロ

作成 : 2020-04-24

読売新聞 , 2020-04-24.

訪問・文書・電話で休業要請したが …
応じないパチンコ６店舗、大阪府が全国初の公表

大阪府は 24 日、政府の緊急事態宣言を受けて出した休業要請に応じない府内のパチンコ店６店舗の名前を公表した。緊急事態宣言の発令後、休業要請に応じない事業者名の公表は全国で初めて。

発表によると、６店舗は「丸昌会館」(大阪市)、「だるま屋」(同)、「P. E. KING OF KINGS 大和川店」(堺市)、「HALULU」(同)、「ザ･チャンス α」(同)、「ベガス 1700 枚方店」(枚方市)。業界団体によると府内には 2018 年時点で 700 店以上のパチンコ店がある。府は休業要請をしたにもかかわらず営業を続けていた三十数店舗のパチンコ店などに、文書や電話、訪問などで休業要請を行ってきたが、24 日正午までに、この６店舗は応じなかったという。

改正新型インフルエンザ対策特別措置法 45 条では、都道府県知事が要請や指示をした際には、事業者名などを公表することを定めている。

府のコールセンターには、23 日までに「休業要請の対象なのに店が開いている」「夜中まで営業している」などの連絡が計 1283 件寄せられているという。

大阪府のこの措置は，どのような事態をつくろうとするものか。
いま社会は，「自粛」に従わない者を非国民と定め，これに憤り攻撃するという不穏な空気になっている。
この措置がつくろうとする事態は，その義憤・攻撃が当該パチンコ店に向けられることである。

大阪府の政治は，ひどく危なっかしい。
大阪府がこの度やったことは，ひとの義憤の利用である。
これは，最も危ないことをやっていることになる。
義憤は，テロに進むものだからである。
そしてテロを誘導することは，それ自体テロである。
大阪府のやっていることは ,「白色テロ」である。

戦時体制は，非国民に対するテロが，下と上の両方から起こる。
下からのテロは，国民がする義憤テロである。
上からのテロは，戦争推進の各種機関がする白色テロである。
戦時体制は，こうして必ず恐怖体制になる。

「自粛」体制で病むのは，経済だけでない。
精神が病むのである。
その病は，正義病である。

正義は，不正義を粛清しようとする。
歴史は，正義のする粛清が決まって惨たらしいものになることを教えている。

正義のテロは，悪の退治であるから，容赦ないのである。

しかし，ひとの矜恃の形はいろいろである。
テロは一方的では済まない。
テロにはテロが返される。
これが，「内戦」である。

政治は，《自分に背く者は一人も許さない》をやったら，とんでもないことになる。
大阪府は，これに進んでいる。

政治は,「本末転倒」のことばの意味をわかっていれば, まずまずだいじょうぶである。
大阪府がわかっていないのは，このことばの意味である。
勉強すべし。

4　反戦

4.1　カミュ『ペスト』ブーム
　　――「ペスト」の読み方

4.2　反戦者の条件

4.3　「ゾンビ」の教え

4.1　カミュ『ペスト』ブーム――「ペスト」の読み方

作成 : 2020-04-13

カミュの『ペスト』が，ちょっとしたブームになっているようである。
《「新型コロナ」を「ペスト」に見立てて，自分の立ち位置を考えてみたい》というわけだ。

カミュは, 1970 年前後のいわゆる「全共闘時代」に, よく読まれていた。
その時代は，各人が自分なりに清算しておくべきテクストというのがいくつかあって，カミュはそのうちの一つだったのである。
そしてそのときは，《カミュが対峙した時代状況を自分がいま対峙している時代状況に見立てて，自分の立ち位置を考えてみたい》であった。

テクストはどう読もうと「ひとの勝手」となるものだが，やはり「とんでもない誤読」というのは考えてみたほうがよい。
この度の「新型コロナ」パニックでは，「ペスト」に代入されることになるものは「新型コロナ」か？

『ペスト』の「ペスト」は，シンボリックなものであって，これの一般化は「菌感染症・ウィルス感染症」ではない。
ひとの＜生＞を破壊するこの感染症は,「正義」を装った全体主義である。
『ペスト』の主題は，正義 / 全体主義に対する「反抗」である。

現前の「新型コロナ」パニックの場合，「ペスト」に代入されるものは,「自粛」を正義にする全体主義である。

そして，「自粛」要請に背く体(てい)で営業している者，外出している者が，
この全体主義に「反抗」する者ということになる。
よくよく吟味すべし。

4.2　反戦者の条件

作成 : 2020-04-17

「反戦」は，左翼的な進歩主義者の本領ようなイメージがある。
このイメージは間違いである。。
太平洋戦争でも，左翼的進歩主義者は雪崩を打って軍国主義者になった。

実際，左翼的進歩主義は，むしろ戦争と相性がよいのである。
左翼的進歩主義は，正義を立てる。
そして，戦争はいつも「正義の戦い」である。

この度も，国会で「正義の戦い」を声高に唱えているのは，野党の方である。
そこで，反戦者の資質とは何かを，改めて考えることになる。

反戦者は，《「正義の戦い」の正義と反(そ)りが合わないので，自ずと反戦になる》というものである。
この資質は，《世の中の言語ゲームと反りが合わない》に一般化される。
例えば，「*故人は今頃天国で‥‥*」とか「*黙祷*」のような言語ゲームができない者は，反戦者の資質がある。

《世の中の言語ゲームと反りが合わない》は，カミュの『異邦人』の主題である。
そしてカミュの『反抗的人間』は，「異邦人」を「反抗的人間」に昇格させる論考である。
この「反抗的人間」は，「反戦的人間」を含意するように仕組まれている。

カミュの「反抗」の概念は全体主義に対する反抗であり，そして戦争は「正義の戦い」であって全体主義だからである。
カミュの『ペスト』の主題は，この「反戦」である。
ひとはたいてい誤読してしまうが，『ペスト』の主人公はペストと戦っているのではない。 ――「ペストとの戦い」という全体主義に反抗しているのである。

さてこのカミュだが,「反抗」の構えをひとに負わせようとするところで,間違っている。
「反抗」は，ひとには負えない構えである。
そしてこの意味で，「反戦」はひとには負えない構えである。

「反抗」は，構えてするものではない。
「反抗」は，自ずとそうなってしまうものである。
そうなるかならぬかは，契機次第である。

この辺の機微は，仏教が「縁(えにし)」のことばで主題化しているものである。
「縁」なんかで説明されたら，ごまかされた気分になるし，また実際ごまかしているわけだが，事実は確かにそんなもんである。

4.3「ゾンビ」の教え

作成 : 2020-04-18

NHK の「よるドラ」に『ゾンビが来たから人生見つめ直した』というのがあった。
(「オンデマンド」があるので，いまからでも見られる。)
個人的感想では，これはカミュの『ペスト』よりずっと良い。
設定もさることながら,『ペスト』のどうにも鼻につく辛気臭さとはまったく無縁である。 清(すが)々しいのである。

ゾンビが発生したら，政治はどう動くか。
政治は，事態解決の取り組みを「戦争」と位置づける。
「戦争」と位置づけるのは, 超法規的措置をとれるようにするためである。
その超法規的措置は，ゾンビが出て来た地域を封鎖し，自壊させるというものである。
自壊を待つのは手ぬるいと見たら，その地域を空爆で全滅させるという措置になる。

この超法規的措置は，人心を動揺させるものになる。
ひとは，その地域の住民そしてまたゾンビに，自分を置き換えてみるからである。
他人事とはならないわけだ。
そこで政治は，「ゾンビ発生」を隠蔽し，秘密裏に全滅を遂行しようとするものになる。

この設定は，「不条理」を主題化する。

その不条理は，＜内と外の雲泥の差＞である。

『ゾンビが来たから人生見つめ直した』は，＜内の者＞の主人公が空爆機が飛んで来るのを見上げるシーンで終わる。（エピローグがあるが，これは無視とする。）
「反戦」とは，このような設定で考えるものである。

「反戦」は，外の者にとっては自家撞着になり，やることではない。
「反戦」は，内の者がやることである――意志からではなく，境遇から自ずと。
内の者は，＜外＞に自分たちを殺させないために「反戦」を立てつつ，内の者として生きることに向かう。

さて，「ゾンビ」の場合，「内の者として生きる」はどんなふうになるか。
「ゾンビになる」である。
ゾンビになるのみの状況においてゾンビになること，これは「進化」である。
実際，生物はこのように進化してきた。

以上の推論は，これを現前の「新型コロナ」に適用してみるためである。
適用すると，つぎのようになる：

> 「新型コロナ」パニックの戦時体制に対する「反戦」の思想・行動は，《「新型コロナ」に罹（かか）ってしまう》である。

ひとは，戦争を「敵との戦争」で考える。

しかし，「敵」は幻想である。
幻想を敵にした戦争は，理不尽なものになる。
「反戦」は，このことに「反対」するのである。
人が死ぬことに反対するのではない。
実際，「人命尊重」を唱える者こそ，戦争をやってしまう者である。
――命は，「尊重」など言ってはならぬものである。

註 1．誤解はないと思うが念のため：
「政治は＜外＞」は，地方自治体も同じである。
東京都だと，東京都民は＜内＞，東京都庁は＜外＞である。

註 2.「新型コロナに罹るべし」を言われて「そんなの嫌だ」を返す者は，もうとっくに罹っていることを知らない者である。
感染は０か１ではない。

→『「新型コロナ」：思考停止・自粛管制・恐慌――騙されないための基礎教養』「I. 教養」

おわりに

作成 : 2020-05-10

本テクストは，『「新型コロナ」：思考停止・自粛管制・恐慌――騙されないための基礎教養』の「自粛管制」の章を PDF 文書にしたものである。
これをすることにしたのは，NHK のつぎのニュースを見たためである：

NHK ニュース , 2020-05-09

> **専門家「悪意はなく過剰な防衛本能が問題行動に」**
>
> いわゆる「自粛警察」と呼ばれる行為や、感染者に関する事実無根の情報をインターネット上に書き込む行為について、社会心理学が専門で○○○○大学大学院・臨床心理学研究科の○○○○教授は「ほとんどの人に悪意はなく、過剰な防衛本能が問題行動を引き起こしている」としたうえで、「行き過ぎると世の中を分断することにつながり、感染予防に逆効果となる」として、冷静な行動を呼びかけています。
> ・・・・・・

「自粛警察」は，テロである。
これを「義憤テロ」と修飾する必要はない。
テロはすべて，義憤テロだからである。

「自粛警察」は，「悪意はなく過剰な防衛本能が問題行動に」ではない。
彼らは，＜自粛していない者＞が心底憎いのである。

「自粛警察」は，どす黒い憎しみを抱える者である。
彼らが＜自粛していない者＞を憎むとき，ウィルスは関係ない。
彼らは，＜自粛していない者＞を本当にやっつけることができるなら，ウィルス感染の怖れがある戦地にも突っ込んで行く。

イスラム国のテロリストを見よ。
彼らは自分の存在を守るために，自分の命を捨てるのである。
この矛盾はなんだ？
それは，自分の命を捨てることが，自分の抱える憎しみの解決だからである。
彼らの心の闇は深いのである。

「自粛警察」の＜自粛していない者＞に対する憎悪は，「非国民」に対する憎悪である。
＜自粛していない者＞は非国民だから，憎いのである。

「非国民」は，戦争がつくる。
「一丸」のスローガンは，一定割合の者を「非国民」にするのである。
「個の多様性」の含蓄として，こうなる。

戦争は，きまって「*馬鹿な戦争をしたものだ*」で終わるものである。
馬鹿な戦争をするのは，アタマがわるいからである。
(しかと自覚すべし，人はアタマがわるいのである。)
「自粛管制」は，このアタマのわるさが始めた戦争である。

「自粛警察」は,「過剰な防衛本能」ではない。
戦時体制に特有の,「非国民を憎む狂気」である。
よくよく吟味すべし。

註：本論考は，つぎのサイトで継続される (これの進行に応じて本書を適宜更新する)：

http://m-ac.jp/catastrophe/_war/covid19/

宮 下 英 明（みやした ひであき）

1949 年，北海道生まれ。東京教育大学理学部数学科卒業。筑波大学博士課程数学研究科単位取得満期退学。理学修士。金沢大学教育学部助教授を経て北海道教育大学教育学部教授 (数学教育専門)，2015 年退職。

「新型コロナ」：洗脳・全体主義　自粛警察

2020-05-10　初版アップロード (サーバー：m-ac.jp)

著者・サーバ運営者　宮下英明

サーバ　m-ac.jp

http://m-ac.jp/

m@m-ac.jp